

SDG s 推進の取組に係る委員意見と本市の考え方について

資料5

NO.	委員意見	意見に対する本市の考え方
1	SDGs推進宣言団体数が2025年度実績で657件と大幅に増えており、企業の関心の高さが伺われる。SDGs推進は企業のイメージアップにもつながり、ひいてはリクルート効果も発揮する取り組みである。	SDGsの取組は、社会課題の解決だけでなく、企業のイメージアップや魅力発信を通じた人材の確保・定着にもつながることから、こうした企業・団体等の取組について積極的に発信しながら、SDGs推進宣言制度への参画を推進してまいります。
2	未だに本市のSDGsの浸透は不十分と思われるため、引き続きの取組を期待する。	SDGsの取組の更なる浸透に向け、引き続き普及啓発や情報発信に取り組むとともに、企業・団体等との連携を推進してまいります。
3	・福山市内には、廃プラスチックの再資源化や容器の循環利用、廃棄物の収集・処理など、環境・リサイクル分野で高い技術やノウハウを有する企業がある。こうした企業と福山市のごみ収集をつなぎ、箕沖地区の環境関連施設・企業の集積を生かした、地域内資源循環の仕組みを構築してはどうか。 ・市民にこの事業を見学できるようにし「プラスチックゴミはゴミではなく資源である」ことを認識してもらう環境教育の場とする。	提案のあった取組については、本市の資源循環の推進につながる取組として受け止めており、関係企業や関係部署と情報共有を図りながら、実施の可能性について検討してまいります。 また、リサイクルプラザの施設見学や民間施設等により構築する次世代エネルギーパークでの体験学習（資源循環の仕組み見学や環境体験講座）などの環境教育の機会を通じ、資源循環の仕組みや重要性についての啓発に努めてまいります。
4	SDGsに関する日々の取組や福山市ならではの先進的な取組が見える化し、SDGsを切り口とした観光につなげるため、取組を体系化して国内外へ発信することが重要である。将来的には、SDGsを目的とした新たな人流の創出も検討してみてはどうか。	SDGs推進プラットフォームを活用した企業・団体等のSDGsに関する取組を広く発信するとともに、将来的なSDGsを切り口とした新たな人流や交流の創出の可能性についても、関係部署や関係機関と連携しながら検討してまいります。
5	SDGs推進宣言やプラットフォームを通じて、市内企業・団体の参加機運を高め、地域課題と解決策をつなぐ基盤づくりに一定の効果があった。今後は、宣言数の拡大に加え、マッチングから生まれた取組の継続性や地域課題解決への実効性を高め、SDGsを企業・団体の行動変容と地域経済・地域社会への具体的な成果につなげていく必要がある。	SDGs推進宣言制度やSDGs推進プラットフォームを活用し、市内の企業・団体等の参加拡大を図るとともに、地域課題と各団体が持つ強みや資源をつなぐマッチングを推進してまいります。 マッチングにより創出された取組については、地域課題の解決につながる実効性の高い取組となるよう継続的なフォローアップや事例の情報発信を行い、取組の定着・横展開を促進してまいります。
6	本市のSDGs推進の取組を考えると、いったい何を、あるいは何と何を最重要な目標として達成するために取り組もうとしているのかが気になる。資料を見ると、エネルギー問題、気候変動が浮かんでくるようだが、それで良いのか。 SDGs推進などと大上段に構えることも大切であるが、その中でとくに本市としては、当面ここだけは欠かせないというものを具体的、明確に例示した上で、その達成への取組を行うべきではないかと考える。すでに明確な目標がある場合には明示してほしい。	福山市第2期SDGs未来都市計画では、多様な主体が参画し、新たな価値を創造する「持続可能なまち」の実現をめざしています。その実現に向けて、「福山版サーキュラーエコノミー」を特に注力する先導的取組として位置づけ、企業・団体等の多様な解決策と、社会面、経済面、環境面の課題をそれぞれ可視化し、マッチングさせるため、SDGs推進プラットフォームを運営しています。 また、「福山版サーキュラーエコノミー」の取組事例として、ばらの剪定枝をデニム生地や紙にアップサイクルし、世界バラ会議福山大会のコンベンションバッグや折りばら、表彰状の台紙などへの活用があり、廃棄予定のものから新たな価値を創造するなど、資源の高度循環化に取り組んでいます。 こうした取組を他の企業・団体等の実践へと広げるため、SDGs推進プラットフォームを通じた情報発信やSDGs推進アドバイザーの活用を促進し、「福山版サーキュラーエコノミー」の実現を推進してまいります。

NO.	委員意見	意見に対する本市の考え方
7	SDGsの推進を通じて地域産業の付加価値向上につながる取組みの強化を期待する。	SDGsの推進を地域産業の付加価値向上につなげるため、SDGs推進プラットフォームを活用したマッチングを促進し、企業・団体等が持つ課題と技術・ノウハウを結びつけることで、新たな事業やサービスの創出などにつながる取組を進めてまいります。
8	SDGsの取組をさらに域内全体に広げていくために、好事例の積極的な発信や、より多くの企業・団体の参画促進が今後の課題であり、SDGsの理念や具体的な取組内容について、住民や地場業者への理解を深めるための啓蒙活動が重要だと思う。	SDGsプラットフォームを活用して、優れた取組事例や取組による成果を分かりやすく発信するとともに、企業・団体等のニーズや取組段階に応じた支援を行うSDGs推進アドバイザーの派遣により、SDGsへの参画を更に進めてまいります。 また、リサイクルプラザの施設見学や「ふくやま環境フェア」などの機会を通じて、SDGsの理念や具体的な取組の普及、啓発を進めてまいります。
9	今後は「理解促進」から「実践成果の創出」へ重点を移して行くことが重要だと考える。特に人口減少や人材不足、脱炭素への対応、地域経済の活性化など、福山市が抱える課題とSDGsをより強く結びつけることが重要。	SDGsを「理解する」段階から「実践成果を創出する」段階へと発展させるため、引き続き、SDGs推進プラットフォームを活用し、企業・団体等の多様な主体との連携やマッチングを進めるとともに、地域課題の解決につながった取組事例を共有・発信することで、取組の横展開を促進してまいります。
10	市内中小企業のGX・DX推進、人材育成、多様な人材の活躍支援などが地域の持続的成長に直結するテーマであり、これらをSDGs推進の中核に位置付けることを期待する。	本市としても、中小企業のGX・DXの推進や人材育成、多様な人材の活躍支援などの取組をSDGsの達成に向けた重要な要素として捉え、関係機関や企業等との連携を図りながら、SDGs推進プラットフォームを活用した情報発信や企業・団体等のマッチングなどを進めてまいります。
11	SDGsに積極的に取り組む企業や団体の成功事例を広く発信し、企業間・産学官金の連携を促進することで、新たなビジネスや地域課題解決プロジェクトの創出につなげることも有効と考える。加えて、若者や学生が地域企業のSDGs活動に参画できる機会を増やすことは、地域への愛着醸成や将来的な定着促進にも寄与すると期待される。	SDGs推進プラットフォームを活用し、優れた取組事例の発信や、多様な主体のマッチングを進めることで、地域課題の解決や新たな事業の創出につなげてまいります。 また、企業、大学等との連携を図りながら、若者・学生が地域のSDGsに関わる機会の創出について検討してまいります。
12	今後も福山市には、SDGsを地域経済・環境・社会の好循環を生み出す共通言語として活用し、成果を見える化しながら、市民・事業者と一体となった取組を進めてほしい。	SDGs推進プラットフォームを活用し、取組事例や成果を分かりやすく発信・見える化することで、取組の横展開や新たな連携につなげ、経済・環境・社会の好循環の創出をめざします。

NO.	委員意見	意見に対する本市の考え方
13	今後は、登録件数、宣言団体数、マッチング件数といった量的な指標に加え、マッチング後の事業化件数、取組の継続率、雇用や売り上げの増加、CO2削減、地域活動の受益者数など、地域にもたらした具体的な成果を把握することが重要である。	SDGs推進プラットフォームを通じてマッチングした事業については、引き続き具体の把握に努めるとともに、環境負荷の低減、地域課題の解決につながる効果など、可能な範囲で成果の見える化を進めてまいります。
14	SDGs推進宣言についても、宣言そのものを目的とするのではなく、各企業の経営課題や事業計画と結び付け、脱炭素、DX、人材確保・育成、健康経営、事業承継、新商品・サービス開発などの具体的な取組へ発展させる必要がある。	本市では、SDGs推進宣言の登録に当たり、企業が目標を設定する際には、それぞれの事業内容や課題に応じた目標となるよう、行政が壁打ち相手となりながら目標設定を支援しております。今後も、脱炭素、DX、人材確保・育成、健康経営、事業承継、新商品・サービス開発など、企業の実情に応じた具体的な取組へ発展するよう、引き続き支援に努めてまいります。
15	アドバイザー派遣については、制度の周知を強化するとともに、企業の取組段階や課題に応じた、より実践的な支援内容の充実が望まれる。	アドバイザー派遣制度については、制度の更なる周知に努めるとともに、企業のニーズや取組段階に応じた支援が行えるよう、派遣内容の充実を図り、企業等のSDGsの取組を推進してまいります。
16	マッチングしたプロジェクト数が、2024年度12件(うち官民12件、民民0件)、2025年度17件(うち官民10件、民民7件)と増加しており、特に民民マッチング件数が0件から7件となっている点などは行政を起点として民間に波及しつつあるとても素晴らしい傾向だと思う。引き続き浸透していき、積極的な活用が進むことを期待する。	引き続き、SDGs推進プラットフォームを活用した課題と解決策のマッチングを促進するとともに、マッチング事例の発信などを通じて取組の「見える化」を進めることで、より多くの企業・団体がSDGsの取組や連携に関心を持ち、積極的に活用できる環境づくりに取り組んでまいります。
17	宣言団体数が、2024年度228件、2025年度657件と大幅に増加しており、市内の企業及び団体において、SDGsに関する取組や具体的な数値目標を宣言する企業や団体が大幅に増加している。今後も多くの企業や団体が関心を持ち、宣言に至る企業が増加していくことを期待する。	引き続き、SDGs推進アドバイザー派遣制度の内容や活用事例等について、SDGs推進プラットフォームをはじめとする様々な機会を捉えて積極的に周知し、より多くの企業・団体に制度を活用していただけるよう取り組んでまいります。
18	宣言団体数が大幅に増加する中で、派遣件数が2024年度5件、2025年度4件と減少に転じている。専門家から指導や助言を受けることは、企業や団体にとってよい機会になると思うので、是非ともさらに周知をしていくことにより派遣利用数が増加していくとよいと考える。	SDGs推進プラットフォームを活用した周知に加え、SDGs推進宣言団体に対して制度を直接案内するなど、専門家から具体的な助言を受けることがSDGsの取組の深化や課題解決につながることを分かりやすく発信し、利用促進を図ってまいります。

NO.	委員意見	意見に対する本市の考え方
19	SDGsへの関心が高まり、宣言者数が増加する一方で、多くの企業や団体において、その後のフォローがなにもされていないところも多いのではないかと思う。是非、行政としてもアドバイスやプラットフォームの更なる整備に努めていただければと思う。	SDGs推進プラットフォームを活用した情報発信の更なる強化や企業・団体間の交流促進を図るなど、より多くの企業・団体がSDGsの取組や連携に関心を持てる環境づくりに取り組むとともに、SDGs推進アドバイザーの派遣などを通じて、企業・団体等の取組を支援してまいります。
20	2027年のGREEN×EXPO 2027や2028年の世界バラ会議(インド・ボパール)など、福山の「ばらのまちづくり」を世界に発信する機会を活用し、世界バラ会議のレガシーをSDGs推進につなげていくことが重要である。	2027年に横浜市で開催される国際園芸博覧会への出展など、今後開催予定の国際的なイベント等を、本市の「ばらのまちづくり」やSDGsの取組を国内外に発信する機会と捉えるとともに、世界バラ会議の開催を一過性のイベントに終わらせることなく、そのレガシーを次世代につなげることで、本市全体のSDGsの取組推進を図ってまいります。